

なつて滝があつても、いきおいよくさかのぼる。鯉の滝登りです。「鯉の滝登り」を広辞苑で引けば、――(黄河中流の竜門の急流を登つた鯉は竜になるといふ伝説から)立身出世のたとえ。登竜門――と、ある。

小さい木魚では鮮明ではないのですが、寺にあるような大きな木魚を見てください。見るといっても普通に見たのではだめで、さかさまから見るのです。そうすると、二匹の竜が、寶珠(ほうじゆ)をがぶりとくわえている姿がくつきりと現れてきます。木魚に彫られた模様は魚ではなくて、立身出世した竜だったのです。

つまり、木魚の音は、声を合わせるためだけではなくて、仏の弟子として、今はしがないこの身だけれども、鯉が上流を目指すように、悟りに向かつて「行かねばならぬ」とポクポクス

るわけです。

あるいは、亡き人のために経をよむときも、「仏の弟子としての戒名をもらつたのだから、鯉が偉大な竜になるように、共に仏になりま

しょうぞ」との思いでポクポクとたたく僕。

さて、新しい年の干支は竜。竜から津波を連想する人もいるため、少々遠慮気味らしい。そんなことはない。困難を乗り越えるシンボルだとすればこれほど相応しい干支はありません。

ません。

ご案内した新年の祈祷法要では、木魚はつかいません。太鼓を使います。木魚はあいてるので、逆さまにして、竜の姿をお見せできます。おまちしています。(住職／博芳記)

キリトリセン

ご出欠の確認のため、当日
この手紙をご持参ください。

年賀受と

新年の祈祷法要

松岩寺本堂にて

元旦・二日・三日／午前10時～10時半

正月三が日の午前十時から新年の祈祷法要をします。ご都合のよい日にお越しください。年賀も上記の法要の時間にお越しください。法要への出欠席の連絡は不要です。

墓地は、線香生花をお世話するものは常駐していません。正月に墓参される方は、線香花などご持参ください。

松岩寺

360-0815

埼玉県熊谷市本石1-102

TEL 048-522-1812

FAX 522-9189

chief@shoganji.or.jp